



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol.300

2022/4/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 子どもたちの昔の道具

02. カエルとサンショウウオ



今月の一枚



「春を待つキャンプ場」

表紙写真・文／八重柏誠

お昼休みにキャンプ場まで散歩に出かけて
みました。

早く雪が解けるようにと、あちらこちらで
除雪をしたあとが見られます。1ヶ月後には
キャンプ場が再開します。博物館の周辺が賑
やかになるのも、まもなくのことですね。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろ町4公園の草花図鑑」 ～10月23日(日)

プチ工房「虫よけ!? オニヤンマくん」 4月15日(金), 16日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房「虫よけ!? オニヤンマくん」

●4/15(金), 16(土) ①10:00 開始, ②13:00 開始, ③14:30 開始, 所要時間90分, 作品ができ次第終了 ●美幌博物館1階 講座室 ●参加費300円, マスク ●鬼丸和幸(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-4/14)。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

こどもの日 無料開館

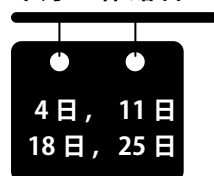
●5/5(木) 9:30-17:00(入館は16:30まで) ●美幌博物館 ●参加費無料, マスク ●なし ●申し込み不要。

こどもの日 工作「鯉のぼりを作ろう」

●5/5(木) ①10:00 開始, ②11:00 開始, ③14:00 開始, ④15:00 開始, 作品ができ次第終了 ●美幌博物館1階 講座室と修理室 ●参加費無料, マスク ●美幌博物館職員 ●美幌博物館へ電話申込み(-5/4)。各回定員20名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

子どもたちの 昔の道具

写真・文／八重柏誠



冬になると、総合学習の一環として、昔の暮らしを学ぶために子どもたちが博物館の第1展示室見学に訪れます。博物館開館から三十数年、第1展示室にある昔の道具は、現在ではとても昔の道具になってしまいました。

博物館が開館した昭和62（1987）年当時、テレビはブラウン管のカラーテレビでした。チャンネルはリモコンで変えていたと思いますが、ダイヤル式のテレビも現役だったと思います。それから三十数年後の現在、テレビは液晶の薄型大画面に進歩しました。開館当時は、現役だったものが今ではすっかり昔の道具になっているのです。現在と過去を繋ぐ展示として、ブラウン管のカラーテレビのような、現在では昔の道具となってしまったモノを展示資料として増やしているところ

つい最近まで現役で、今では昔の道具と呼べるものはまだまだあります。そのようなものの一つとして、石油ランプの横に裸電球の電灯を並べてみました。私たちが普段使う照明器具は、白熱灯や蛍光灯を経てLED照明に切り替わりつつあります。今回展示した白熱球は、まさに消えつつある道具と言えるでしょう。

美幌町では大正6（1917）年、市街地に電線が敷設され、家庭にも電灯が普及しました。石油ランプは、煤で汚れたホヤの掃除をこまめに行う必要があります。手の小さな子供の仕事だったといいます。電灯が普及すると、子供たちは面倒な仕事が減り、大変喜んだと伝えられています。時代は進み、電灯はLED照明へと進歩しました。LED照明の驚異的な耐久性は、電球を交換するという作業すら忘れさせるのかもしれません。

カエルと サンショウウオ

写真・文／町田善康



オタマジャクシと言えば、“オ
タマジャクシは、カエルの子
～♪”で始まる、童謡「お玉^{たま}杓^{じやく}子は^{かえる}
蛙の子（東 辰三・永田哲夫 作詞）」
を思い出します。幼少期、私は、タラ
イの中でキュウリを餌に、オタマジャ
クシを飼いました。オタマジャクシ
は、輪切りのキュウリをムシャムシャ
食べ、やがて手足がはえ、日々の変化
に毎日タライをのぞきこみました。と
ころが、尾が短くなりカエルのように
なってくると、食欲が落ち、変化も乏
しくなるので関心が薄れます。気が付
けば、タライの中には、彼らの姿はな
く、食べ残した輪切りのキュウリが浮
いているだけでした。

さて、歌詞にも出てくる“やがて手
が出る。足が出る”というフレーズ。
オタマジャクシを飼育した経験がある
方ならばわかると思いますが、先に出
るのは、足で、その後に手が出ます。

では、サンショウウオはどうでしょ
うか。実は、カエルとは逆で、先に出
るのは手。その後に足が出てきます。
また、オタマジャクシのように、エサ
を入れておけば良いのではなくて、口
の前までエサを持っていかないと食べ
てはくれません。手間がかかるほど可
愛いとは言いますが、サンショウウオ
は、オタマジャクシとは、また違った
魅力があります。

もうすぐ雪が解け、いよいよ春が
きます。カエルもサンショウウオも春
一番に水辺にやってくるので、小春日
和に歌でも歌いながら、彼らに会おう
忙しい季節の始まりです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....
某新聞の記者さんに「もうすぐグリーンレター
が 300 号ですね」と会うたびに言われていまし
た。「はいはい」と軽い返事で答えていましたが、
まさか自分が 300 号に執筆するとは…。節目の
300 号は、ネタが多い夏に書きたかったです。(町
田)